（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2372201380		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル友明かり		
所在地	愛知県一宮市北方町曽根字村裏西15番地		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2372201380-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和3年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ敷地内に1ユニットは小規模多機能型、他3ユニットはグループホームなっている。田園風景の中の一角にあり、季節を肌で感じながら日々の生活を過ごしている。地域の方との触れ合う時間も多い。…年々歳を重ね重度化され、グループホームの自立支援とかけ離れ身体介護・精神ケア・看取りと増えているが、利用者同士の助け合う姿や、活き活きとした表情で笑顔の絶えないユニット。「長生きして良かった。此処にきて良かった。」と、利用者間の会話から聞こえてくる。利用者様・ご家族様・職員の信頼関係も深く、満足ある暮らしのサポートを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは1ユニットの事業所であるが、同一建物内に小規模多機能事業所を併設して運営していることで、利用者や家族の様々な状況にも合わせて、小規模多機能から生活場所を移行することができることで、利用者にとっては、円滑な生活場所の移行にもつながっている。地域の方との交流については、隣接して開設されている関連事業所とも連携して行われており、地域の方にホームを知ってもらう取り組みが行われている。家族との交流についても、現状の感染症問題が続いていることで交流が困難になっているが、例年は、運動会をはじめとする、家族との交流が行われており、利用者との関係継続につなげる機会がつくられている。また、職員研修については運営法人全体で行われており、様々な研修の機会を通じて、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）　*コロナ禍で不可		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）＊コロナ禍で不可		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）＊コロナ禍で不可		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニット内、また目につく場所に貼ってあり、毎朝の申し送り時、ミーティングの際確認し合っている。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本としており、毎月の職員会議の際には、職員間で理念を確認する取り組みを継続している。また、ホームで独自の支援も検討しながら、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行事関係はコロナで中止。 散歩は感染対策を行い天候が良いときは外に出ている。 100円ローソンが移動販売に来てくれ、駐車場内で好きな物を選び、買い物出来ている。	法人代表者及びホーム管理者が地域の方でもあり、地域の方との交流にもつながっている。例年は、様々な機会を通じて地域の方との交流が行われているが、感染症問題が続いていることで、限られた範囲となっている。	地域の方との様々な交流が中止になっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、可能な部分から交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ブログにて活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	密になるので、感染対策を考え中止にし、書面にて利用者様の日々の生活や様子を報告している。	会議については書面による実施が続いているが、例年はホームの行事を通じた関係者との交流が行われており、ホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、利用者の状況等を詳しく記載した資料の作成も行われている。	会議が書面による実施が長期になっていることもあるため、今後の状況もみながら会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が携わっている。	市内の介護事業所が集まる連絡会で役職を務めたり、市で行われている研修会等にホームからも参加する機会をつくっており、情報交換等につなげている。また、運営法人の関連事業所を通じた連絡会や地域包括支援センターとの交流等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1回身体拘束委員会を行い、勉強会・ミーティングにおいて話し合っている。	身体拘束を行わない支援に取り組んでおり、利用者の状況等に合わせて外に出る等、職員間で利用者を見守る支援が行われている。また、運営法人全体で身体拘束に関する検討が行われており、職員への周知等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様、勉強会・委員会・ミーティングにおいて、話し合い意識を持ち防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者・リーダーより説明を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が立ち会い、詳しく説明を行い安心して利用されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で家族会等中止している。	感染症問題が続いていることで、家族との交流が限られた範囲となっているが、例年は、家族会の開催や行事等を通じた定期的な交流の機会がつくられている。また、毎月のホーム便りの作成の他にも、運営法人のブログによる情報発信も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	OJTなどの時や話す時間を作り意見や提案を聴き、反映させている。	当法人では、リーダーを中心に職員間で意見交換を行う機会をつくり、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みを継続している。また、管理者による職員との個別面談も行われており、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回OJTがあり、リーダー・管理者と面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍だが、感染対策や換気を行い内部や外部の研修に参加する機会はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍で交流会などは出来ていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居から一定期間は日々の様子を観察し、コミュニケーションを図り、細かく記録し職員間で情報を共有し不安や要望を聞き、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所時などはご家族に対し、思いや要望を聞き、安心できるよう信頼関係を深めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今何が必要かを考え、ケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、出来る事に取り組んで頂き、職員と共に行い関係を築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の状況や思いを電話やお便りで伝えたり、オンライン面会でご家族との絆を深めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響で時間を決めての面会やオンライン面会での交流が出来るように努めている。	現状、利用者の入居前からの関係の方との交流が困難になっているが、利用者の中には電話や手紙等をを通じた交流が行われている。また、家族との外出については、感染症問題が続いているが、受診を通じた外出は継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様個々の性格を把握し気の合う者同士、又孤立しないようレクリエーションなどで、交流を深める。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	偶然に再開した際、現状を伺い話を聴き相談など、出来る限り答えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様からなんでも話をして頂けるような信頼関係を築き、思いを聞き取り希望に添えるよう努めている。	ホームでは、職員全員で利用者に関する意向等の把握に取り組んでいる。定期的なアセスメントの他にも日常の申し送りや毎月のカンファレンスを通じた利用者に関する検討が行われており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族から情報を収集したり、ご本人との会話から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様お一人おひとりの出来る事出来ない事の確認、体調管理、生活のリズムを把握し、適切な支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティング内で検討し、ケアが行えているか課題はないか、見直しをしている。	介護計画は、6か月を基本に見直しが行われており、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげる取り組みが行われている。また、日常的にも職員間で利用者に関する情報の共有が行われており、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	電子化により多少の混乱と不慣れはあったが、日々触り慣れてきている。 ケアプランに沿って支援した事や日々の事・変化・様子はタブレット端末に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時に合わせご本人にとって、一番適しているケア方法を常に考え、支援に取り組む努力をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍でボランティアの活動は中止になっているが、移動美容室や歯科往診は行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の希望を優先しているが、コロナ禍で緊急以外の受診は出来ていない。往診に来ていただいている。 往診医には全員往診してもらっている。	協力医による定期的及び随時の医療面での支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応につなげている。また、看護師を通じた協力医との連携や医療面での支援も行われており、家族との情報交換等にもつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回看護の日があり、状態を報告している。 緊急・急変時には看護師から指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師・ワーカーと常に連絡を取り、状況確認し、話し合い、連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師・看護師・リーダー・管理者・ご家族と十分に話し合い、方針を検討し、職員で共有し積極的に、悔いなく取り組んでいる。	利用者の看取り支援にも柔軟な対応が行われており、家族との話し合いを重ねながら、看取りを見据えた対応も行われている。利用者の段階に合わせた家族との意向等の確認を行い、ホームで支援可能な取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に対するマニュアルに従い対応している。 また迅速に対応出来るよう訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・3ヶ月ごとに訓練を行っている。 ・消化器・火災報知器の点検が定期的にある。	独自の避難訓練の他にも関連事業所との合同の訓練も実施しており、職員間での連携につなげている。備蓄品についてもホーム内に確保する取り組みが行われている。また、法人代表者及び管理者が近隣で生活していることもあり、非常時にも備えている。	水害を想定した訓練も行われており、関連事業所の利用者が当ホームへ避難することが想定される。非常災害に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の尊厳を大切にし、言葉遣い、声掛けにも気をつけて対応している。	運営法人の基本理念を元にした6項目の指針がつくられており、定期的に振り返りを行うことで、職員が日常的に利用者を尊重し、一人ひとりに合わせた対応につなげる取り組みが行われている。また、接遇に関する職員研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話からご本人の思いを発言出来る様に促している。 また自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務が優先的になりがちだが、目配り、気配りしながら、ご本人のペースに合わせ楽しく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の意見を取り入れ衣服を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様と一緒に献立を考えるようにしている。 準備・片付けは、利用者様と職員一緒に行っている。	食事については、職員間で検討しながら、利用者も調理や片付け等のできることに参加している。季節等に合わせた食事作りやおやつ作りが行われており、利用者の楽しみにつなげている。職員については、感染症対策を行いながら食事が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	出来る限り品目を多く取り入れ、色どりにも工夫し、個々に合わせ形態をかえ提供。 水分も1日１．5ℓ摂取出来るよう摂取量をつけている。夏は2ℓを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨きを声かけ・見守りにて行っている。 夜間は入れ歯洗浄剤を使用し洗浄・消毒をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	タブレットに排泄をつけており、早めに声掛けや誘導し、トイレでの排泄出来る様に取り組んでいる。	排泄に関する記録については、電子記録が行われているが、書面による記録も残しており、職員間で情報を共有する取り組みが行われている。職員間での排泄に関する検討や医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給・野菜・きのこ類を多く取り入れたり、運動・マッサージなどで、自然排便が出来る様に、心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人でゆっくり入浴して頂いている。 体調によっては清拭をしている。	利用者が週3回を基本にした入浴支援が行われており、入浴の時間の検討を行いながら、入浴を拒む方も定期的に入浴できるように支援が行われている。また、浴室に大きな浴槽が設置されてあり、利用者がゆったりと入る支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自分のペースで休息をされている。 布団干し・シーツ交換・居室の温度調整し、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様が服薬している薬と病歴を合わせて把握できるように努めている。 状態によって薬の変更には薬剤師や往診医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事仕事は個々に合わせ役割分担している。 誕生日やユニット内イベント開催し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の影響で今年も買い物・喫茶店・ランチ・ドライブなど外出は困難となっている。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、近隣にある神社に散歩を兼ねて出かける等、現状で可能な取り組みが行われている。また、外出行事の代わりに自動車を活用したドライブが行われており、利用者の楽しみにつなげている。	現状、可能な範囲で利用者の外出の取り組みが行われているが、感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部の利用者様は自己管理されている。 その他の利用者様はユニットで預かり、必要としている物はご家族と連絡を取り、ご家族や職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	タブレット端末を使用し、ビデオ通話ができご家族とお話が出来る様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアーには四季に合わせた作品・写真・壁掛けなどを展示している。	ホーム内は広めの空間が確保されてあり、建物の2階の場所であることで採光にも優れており、日中の時間は明るい生活環境となっている。また、リビングの壁面には、季節感に配慮した飾り付けや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアーにはソファーがあり、くつろぎテレビを観ることが出来ている。 廊下には畳のベンチがあり、そこでお喋りしたりしている姿もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の写真・愛猫愛犬の写真をご家族から提供して頂き壁などに飾られ、安心して過して頂いている。	居室については、利用者や家族の意向等にも合わせて、使い慣れた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、自身の作品や家族の写真等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアー・廊下に手すりが設置されている。 自室入り口には表札や暖簾を掛け、解りやすいように、目印になっている。		